

## ■ロタイの魅力■

こんにちは。

島根・ビジネスサポート・オフィス担当の藤井邦夫です。

2年前の9月号からサポートオフィス便りを執筆させていただき、早いもので2年が経過しました。このオフィス便りも気がつけばVol.25となりました。このオフィス便りを通じて、島根県の皆様が少しでもアセアンを身近なものに感じて頂けたら幸いです。

今回は、2年間のサポートオフィス業務を通じて、改めて感じているメコンエリア及びその中心であるタイの魅力について記載させていただきます。



### ① 小資本から進出が可能（サービス業の進出が容易）

サービス業の外資規制はあくまでも出資比率の要件のみとなっています（タイ人を必ず取締役就任に就任させなければいけないなどの要件はありません）。これは、周辺国に比べて比較的緩い外資規制といえます。製造業以外の形態で進出する場合は、タイ人もしくはタイ企業のパートナーを見つける必要があります。しかし、多くの中堅・中小企業が進出しているタイでは、タイ側のパートナーを手当てする方法は複数あります。

特別な事業でなければ、タイ法人（タイ資本が50%以上の会社）は、最低資本金の規制もなく、どんな事業も展開出来ます。

※外国人の労働許可を取得するためには、外国人（日本人）1人につき払込資本金200万THBと、タイ人4名の雇用が必要という制約があるため、いわゆる日系企業がタイに進出する場合の最低資本金は200万THBとなります。

上記の結果、製造業にサービスを提供するような企業や商社の進出が可能となり、中小企業を含めた分厚い産業集積が構築されていると考えています。なお近年は、製造業ではなく増大する中間所得層をターゲットにしたサービス業関係の進出も目立ちます。

### ② メコンエリアの中心という恵まれた立地・周辺国を圧倒する産業集積

南部経済回廊を走破して、やはりメコンエリアの中心はタイであることを実感しました。また、タイに進出されている企業の話聞いても、周辺国への出張やビジネス展開が多いことに驚かされます。周辺国へのアクセスの良さもタイの強みになっています。

2016年9月

今後、大手が先行してタイ+1といわれるミャンマーやカンボジア・ラオス等に進出されていくと思いますが、タイはインフラが安定している事や既に産業集積がある事から、チャイナ+1のように、中国から移動という事ではなく、タイを軸にメコンエリアの製造を効率化するという動きが加速すると思います。このような観点から私は、中長期的にタイが成長を維持・発展すると考えています。

### ③ 親日的な国民（仏教徒）・安価なリビングコスト

アセアンの他国に視察・旅行にて訪問する度に、上記の内容について特に感じます。タイの国民性として、それほど強烈に主張をする方も少なく、また親日な方が多かった事もあり、私は3年以上タイで暮らしておりますが、特段日本人であることで嫌な思いをした事はありません。また、国民のほとんど仏教徒であるため、日本人からすると、生活・仕事上において、宗教上の差を感じる事はございません。このような国民性や宗教感について、長く生活や仕事をする上では、重要な基準になってくると感じています。

また、リビングコスト（外国人が住める住居のラインナップの広さや住居費の安さ）については、現状他のアセアン諸国の追随を許さないと感じています。駐在員のリビングコスト安さは、直接的にコスト削減につながりますので見逃されがちですが、大きなポイントであると考えております。

上記については、あくまでもタイに居住している私から見た他の東南アジア諸国との比較や感想となりますので、やや身内びいきのような部分もあるかも知れませんがご容赦下さい。皆様も是非現地に足を運んでいただき、私の記載した内容についてご自身の目から判断頂けましたら幸いです。

#### ～担当変更のご挨拶～

私は開設以来2年間にわたり島根・ビジネスサポート・オフィスの専属担当者として各種対応をさせて頂きましたが、来月より担当が佐藤<sup>さとう</sup> 揺<sup>たゆた</sup>に変更となります。長い間このオフィス便りにお付き合いいただきどうもありがとうございました。

今後もアセアン進出に関する相談について、当オフィスをご活用頂けましたら幸いです。

## ☆☆タイから便り☆☆

～日タイ交流 600年～

文献によると日本とタイの交流は600年前に遡るといわれています。当時は、民間同士が御朱印船によりタイと貿易を行っており、当時タイの首都であるアユタヤには日本人町が形成されていました。先日アユタヤで日本人町跡を訪問し、600年以上も前に同じ日本人がこの場所に多く生活していた事に思いを馳せる事が出来ました。現代とは交通・移動手段が違うため、私とは比べ物にならない覚悟と苦勞をしてアユタヤに到達していたに違いありません。

タイに駐在する我々も時には、このような場所を訪問し、駐在当初の決意や覚悟を思い返しても良いかもしれません。

日本と皇室とタイの王室も親密な関係を築いております。天皇皇后両陛下は、御即位後、初の外国訪問としてタイを選ばただけでなく、2006年のプミポン国王の即位60周年の記念式典にも出席されています。

また、淡水魚の「プラー・ニン（ティラピア）」が、天皇陛下が皇太子時代にタイの人々の食生活におけるタンパク質不足を補うためとしてタイ国民へ贈られた魚であることを、年配のタイの方から教えてもらう事があります。このような事から、タイの方は日本の皇室にも敬意を払って頂いているようです。

来年2017年は、1887年に日タイ修好宣言が調印されてから130年となります。タイで仕事や生活をさせて頂いている事に感謝を忘れず、長年の交流を基盤に日本とタイがお互いの理解を深め、さらなる絆や連携が図れたらと思っております。



島根・ビジネスサポート・オフィス Shimane Busuiness Support Office(Bangkok)

担当：藤井 邦夫 Kunio Fujii

Address :1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,  
Sukhumvit Rd.,Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-10588

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : [shimane-bizsup@aapth.com](mailto:shimane-bizsup@aapth.com)



お気軽にご連絡ください。

当拠点の運営法人(島根県より業務委託)

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インドにて主に日系中堅・中小企業様のアセアン進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

## ワンページタイ経済

項目	単位	2013	2014	2015	2016
GDP 成長率	前年比ベ(%)	2.80	0.9	2.8	3.4(1~6月)
人口*	千人	68,382	67,065	67,293(12月)	67,386(5月)
労働者の数*	千人	39,808	38,963	39,165	38,701(6月)
失業率**	%	0.72	0.84	0.89	1.01(6月)
最低賃金*	バンコク	300	300	300	300
	チョンブリー	300	300	300	300
	アユタヤー	300	300	300	300
	ラヨーン	300	300	300	300
賃金:全国製造業の平均	パーツ	11,066	12,074	12,305	12,268(6月)
インフレ率**	前年比ベ(%)	2.19	1.90	▲0.90	▲0.10(6月)
中央銀行政策金利*	%	2.25	2.00	1.50	1.50(7月)
普通貯金率**	%	0.68	0.59	0.56	0.47(6月)
ローン金利(MLR) **	%	7.16	6.96	6.75	6.53(7月)
SET 指数*	1975年:100	1,298.7	1,497.7	1,288.0	1,524.1(7月)
パーツ/100円**	パーツ	31.53	30.77	28.31	32.08(7月)
パーツ/米ドル**	パーツ	30.73	32.48	34.25	35.42(7月)
円/米ドル**	円	97.6	105.84	121.0	110.7(7月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	1,337,631	884,346	795,905	383,046(6月)
BOI 認可プロジェクト	件数	2,016	1,662	2,237	763(6月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億パーツ	1,027.3	729.4	809.4	283.1(6月)

\*期末、\*\*平均